

平成28年7月20日

放射線科学講座教育・研究組織に関する提言

1. 講座のあり方と方向性

放射線科学講座は放射線治療と診断を中心とする教育と専門的医療を行い、地域医療に貢献する専門医を養成し、当該分野の発展に寄与してきた。しかし、放射線治療学（放射線腫瘍学）領域では、高精度放射線治療法の開発や放射線治療の需要増加、一方、放射線診断学領域では画像診断やインターベンションにおいて技術革新が進み、いまや両領域は高度に専門化している。そこで、放射線治療学と放射線診断学に関する2つの講座を整備し、両講座の教授を公募し、先端的かつ国際的な研究を推進するとともに、人材の確保に努めてゆくことが必要である。

2. 診療

放射線治療学と放射線診断学に関する2つの講座は各々の専門性を発揮し、本学附属病院における放射線治療と放射線診断に関する診療の中核となって先進的医療を実践してゆくことが求められる。

3. 教育

両講座が協力して、卒前・卒後教育の全ての面で積極的に携わることが求められる。

4. 研究

上記の診療・教育に関連した臨床的、基礎的研究を推進してゆくことが求められる。

5. 社会活動

地域医療に対して積極的に貢献することが求められる。

6. その他

放射線治療学と放射線診断学に関する2つの講座の構成員として第一に求められるものは、卓越した臨床能力と、それを追求する真摯な姿勢である。特に、放射線治療学に関する講座の教授には、がん診療連携拠点病院としての役割を担う附属病院における放射線治療のリーダーとなる人物が求められる。また、両講座ともに学外の医療機関と密接に連携することによって、地域全体での放射線医学の充実を進めることのできる人材が必要である。

放射線科学講座教育・研究組織提言委員会

若林孝一（委員長）、福田眞作（副委員長）、下田 浩
鬼島 宏、今泉忠淳、田坂定智、佐藤 温、袴田健一